

大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議⑤議事録

日時：平成16年9月18日(土)13時00分～15時10分
場所：四日市市総合会館7階 第2研修室
出席者：委員 別紙出欠表のとおり
事務局 商工課 平林課長、永田副参事、駒田勤労観光係長、中本主幹、待井技師

<事務局から資料説明>

大四日市まつりに対する意見(パブリックコメント)を紹介。

1. 大四日市まつりにおける市民と行政の役割

<各委員意見交換>

市民の参画を進める方法について、行政と共同する手法など色々な形が考えられるが、各委員の意見を伺いたい。

参加・参画で思うことは、気軽に助けられる仕組み(例えば、祭り当日に短い時間でもスタッフとして参加できる形等)があれば良い。

行政の役割について、運営・資金面は現状を維持し、企画面では大胆に変革してほしい。実行委員会に市議会議員の参加は必要ないと思う。他の地域では、青年会議所のメンバーが主体的に祭りに関わっていることが多いので、青年会議所との密接なリンクを考えていくべきではないか。また市民の参加・参画については、企業の参加をもっと広げることと学校・団体の枠を広げる取り組み(特に大学のパワーを引き出す)に力を入れるべきである。もう一点、市内には様々なボランティア団体があるが、ボランティアの方の力を引き出していくことも大切である。余談になるが、花火大会とドリームパレードを融合すれば賑やかな企画になるのではないか。

青年会議所の参加であるが、年によって差がある。平成12年度に、まつりをテーマにしたワークショップを開催しているが、当時は青年会議所の理事長が中心になり、まつりを中央通りで開催するなど一定の成果が見られた。またボランティアとして参加いただくなど、深く関わっていただいたことがあるが、その後の参加は減ってきている。今年については、大四日市まつりの協賛行事としてジャスコ跡地でイベントを開催され、その中で、諏訪太鼓の創始者である小口大八氏を招くなど、盛り上がり貢献いただいた。継続的な関わりが難しいということが課題である。

参加について、行政からロータリークラブ等へ働きかけることはしていないのか。

大四日市まつりが出来た41年前には、山車の方にも参加をお願いしスタートした経緯がある。また、最近まで、市内の団体にイベントに参加してくださいと事務局からお願いしていたが、お願いして出演いただくと、どうしても参加してあげているという意識になってしまい、そういった側面が役所のお祭りとの批判をいただく原因の一つになってきたという歴史がある。

市が関わるのは当たり前であるが、あまり大々的に介入するのではなく、ポイントポイントで関わる形になっていけば良いのではないかと。市民の意見の中に、四日市市長が一人で来賓席に座っているのに、気の毒に感じたとの意見があるが、市の税金を投入するのであれば、市長は来賓席に座っているのではなく会場を歩き回るべきである。また、ボランティアとして参加したいと考えている人は市内にもたくさんみえるのではないかと。バスの最終時刻が夜8時台で参加を断念せざるをえない方も相当いるのではないかと。参加を増やしたいのであれば、参加しやすい条件づくりに努めるべきである(募集の方法や時期の問題)。さらに参加という点で、店を出店したい方もいるのではないかと。思っている。

参加したいと考えている大学生は多いが、意外と知らない人が多いのも事実。いつの間にか終わっていたケースがしばしばある。周知という点で、大学の組織への働きかけと有効な媒体(目立つようなツール)が必要ではないかと考える。

情報を具現化し、かなり早い時期から参加を呼びかけることが必要である。

まつりが終わると諏訪太鼓をやってみたいという声を聞くが、なかなか飛び込めない現状があるよ

うに思う（諏訪太鼓振興会の事務局は商工会議所）。まつりの中で、練習をさせる子供教室を開催し気軽に触れ合う場を提供することも大切ではないかと考えているところである。

市商工課のまつり担当者と2人で市内の中学・高校はすべて訪問し、おどりフェスタへの参加を呼びかけている（今年で3年目）。四日市大学も訪問している。問題は、市役所の担当は人事異動で替わるため、学校行事が決定される前の段階で訪問ができないことである。（実際には実行委員会で計画が承認された後でないという訪問できないため）また、周知媒体という点では、企画運営会社が入札で決まるため、決定前の段階では手作りの資料しかなかったという点も問題である。参加という点では、リトルおどりフェスタの場合、イベント創設期に、市の担当者と市内の幼稚園を訪問し参加を呼びかけた。呼びかけに応じて参加いただいた園は園長が替わっても参加し続けている。また、異動になった園で園長が保護者に呼びかけていただき、新たに参加いただく場合もある。中学高校と訪問しているにもかかわらず参加が増えないのは残念である（先生がその気になってくれない）。さらに、この会も会議を行うだけでなく、この会からおどりフェスタに参加することで参加者数の増加につながることもなるし、このような会議が行われている周知にもつながると思いい前提案をさせていただいた。また、市役所内に、全庁的なレベルのおどり盛り上げ隊が必要ではないかと思っている。

市民参画は簡単なようで奥の深い問題である。自分はこの5年間、市民グループである21世紀の四日市まつりを創る会のメンバーとして、まつりに関わってきている。市民参画を進めるため、会長と二人で学校、地区市民センター、文化会館などあらゆる所を回って話をしてきたが、それぞれの立場で問題があったため、実現に至っていない。そのような経験の中で学んだことは、仕掛けをつくる必要があるということである。一つは地区中心のまつりに移行していくことで、その中心として地区センターを動かすように仕向けていくことである。学校関係でいえば、県の教育委員会を動かすことである。また、市内部に市長直属の部署を設けて全庁的に取り組める体制を整えることも必要である。そして、それらの組織を結び付けていくことが大切である。また、企業の参加を促すのであれば、参加メリットがあるように仕組んでいくことである。要するに組織を動かすことが重要になってくる。

市民参画・参加で重視すべきことは大学生や高校生の参加を増やしていくことだと思う。具体的ではないが、人と人のつながりを増やしていくことが結果的に市民参加が増えることにつながっていくのではないかと。仕掛けという点では、桑名の石取り祭りのことがインターネットのヤフーのホームページのトピックス欄に掲載されていた。おそらく主催者の誰かが発信したのであるが、そのような仕掛けも大事ではないかと考える。また、実行委員会の組織改革として、例えば、一橋大学の関教授等（街の将来像を中長期的に研究し、またまちづくりリーダーも養成）、外部の方の参加を検討すべきである。また、他都市の成功例を謙虚に学ぶために、鈴鹿や桑名等の実行委員会の委員にオブザーバーとして参加いただき、意見をもらうことも必要ではないか。

市民の意見が大入道がどこで演技をしているかわからないとの意見があったが、私も同感である。以前から言い続けていることであるが、どの時間帯にどこで何をしているかがまったくわからない。小さなことかもしれないが、大事な点であると思う。

自分の生まれ育った場所は、大四日市まつりの会場に近い所であり、小さい時からお祭りに慣れ親しんできたが、どんどんさみしくなっているような気がする（時代の流れで仕方がないことではあるが）。参加という点で、今年初めてリトルおどりフェスタに参加したが、参加してみると非常に楽しかった。市民のみなさんもなかなか出るきっかけが作れないだけかもしれない。また、バブルの頃は宣伝のためにまつりにたくさんの企業が参加していた。

参加を高めていくことは共通であるが、参加の方法もいろいろな面がある。出演者としての参加、運営からすべてを行う参加。論点を整理し議論していく必要がある。出演者の参加を増やしていくには、この人をお願いをすればまとめていただける人をどうやって見つけ出すかにかかっている。残念ながら、どうやったら市民の参加を増やしていくことができるかを考えるための戦略を立てる場が実行委員会にはない。運営からすべてを行う参加の面については、出演者の方が実行委員会に入っただけで徐々に進んできているが、一般の人が入りにくい状況もある。委員としての参加でなくても意見としての参加でも良いと考えるが、どうすれば一般の人が入りやすくなるかが課題

である。また、実務の話として、4月に開催されているエキサイト四日市バザールは、以前は商工課で事務局を担っていたが、現在は、金銭的な支援と広報支援のみで、実務面は行っていない。しかし、大四日市まつりがエキサイト四日市バザールのように、民間に移行して運営できるかどうかを考えてみると、仕事を持ちながらではとてもできない分量の業務量があり、今の状況では事務局は市に置かざるを得ないと考える。

小さな集団のコミュニケーションをしっかりと作っていくことが大切である。次に、それに対して金銭的にどう支援していくかを考えていくことである。また、ボランティアの参加を増やすためには、海開き前の海岸清掃のように、目的を明確化し、ニュース性を持たせることが重要である。

私は見たことがないが、鈴鹿市の鈴鹿フェスタは盛り上がってきているのか。

見た目の問題ではないか。派手に見えるからではないか。

見えるというのが大事である。求心力がないと人は集まらない。

観客動員数が何万人あったかよりも、大四日市まつりの中身が面白いというイメージの方向に持っていくことの方が重要ではないかと思う。

そこで思うことは、総花的な内容ではなく、中身を絞り求心力を高める方向へ持っていくことが大切ではないか。

大四日市まつりの規模ともなると、仕事を抱えながらまつりの業務にかかわるレベルを超えている。仕事としてできる人でないと事務局は難しく、現状では、市役所や商工会議所など、組織が中心にならざるを得ない。

私一人で学校を訪問しても恐らく相手にしてくれないであろう。商工課の担当と訪問するから、先生も話を聞いてくれるのであって、市役所の看板は影響力がある。

会場を決めることなど環境整備に関しては、どのように決定されているのか。

大四日市まつりのほとんどの会場は道路上であり、警察と事前に調整している。

動線、案内、人の流れを考えるのは誰が行うのか。

実行委員会になる（実行委員会のメンバーには警察の方も入っている）。

動線を大きく変更した事例としては、平成13年に、近鉄四日市駅のすぐ東で中央通りの北側車線の交通を規制し会場としたことがある。また、市民公園と三滝通りについて会場を分散することがいいかどうか過去に議論があったところである。今後も課題である。

収入の内訳はどのようになっているか。

協賛金と市の補助金を中心となってまつりの運営費を捻出している。

協賛金は会場で表示しているのか。

会場で表示はしていない。

パンフレットに協賛企業のリストを挟み込んでいる。また、おどりフェスタについては、副賞の景品を提供いただいた企業の企業名を景品ボードとして会場に掲示している。

金額を表示することで相手先にご迷惑がかかるケースもあり、金額の表示は行っていない。

出演団体の組織化を進める中で、集会場所、練習会場や稽古場を提供するなどの便宜を図る事例はあるか。

おどりフェスタの参加団体の横のつながり（組織化）を進展するために、まつり終了後に、名古屋のど真ん中祭りの参加のための合同練習会を開催した。また、同じくまつり終了後に、おどりフェスタの参加団体を集めて反省会を持ったりしている。その反省会の中で、今年度参加した常磐中学校と橋北中学校及び日永小学校が主体になり、校長会に参加を働きかける“おどりフェスタ連絡会”をつくろうと盛り上がってきているので、みなさんのご協力をお願いしたい。

今までの話を聞いていると、市民の参加は年々レベルアップしていることは間違いない。また行政の役割については、今後具現化されてまとまっていくものと思われる。

2. 大四日市まつりのメインイベント

<各委員意見交換>

山車の問題については影響が大きいため、去る9月15日（水）に、四日市市山車文化財等管理者連絡協議会（以下、四山文協）の会員に集まってもらい、夏の大四日市まつりへの参加を見合わせ

秋の四日市祭りのみ参加される場合は、他の地域の祭りと同じ扱いをせざるを得ず、金銭面等直接的な支援は難しいという前提のもと、山車の代表の意見を聞いた。

四山文協の結論としては、秋祭りへの参加をメインとし、夏まつりは任意の参加とする。また、節目の年には全山車が夏まつりに参加する。さらに、任意での夏まつりへの参加は妨げないことでまとまった。

山車の関係者としては、秋祭りに移行したいという思いが強いが、夏まつりは任意で参加する形で決まった。

(事務局より市民会議骨子素案を説明)

その他の企画について、協賛行事として開催される場合、今まで通りの同じ会場の融通は考えていただけるのか。

主催行事の優先が基本的な考え方であるが、どこまで融通できるかは今後の議論。

狙いは、メイン行事を明確にし、集中してPRしたいという思いである。

委員の総意としては、大体このような案になるのではないか。

Kai-kouめぐりあい協賛行事とすべきではないか、また市民の夕べは歴史もあり参加者も多いことから主要企画の内容に位置付けるべきではないか。

骨子はたたき台であり、これから各委員の意見をいただきたいと考えている。

<事務連絡>

- ・パブリックコメントの応募期間を9月17日から10月13日に延長したい。 了承。
- ・10月8日までに、骨子案について、各委員の意見を事務局まで提出いただきたい。 了承

<次回開催日程>

次回開催日は10月16日(土)13時00分～ 総合会館7階第2研修室

次々回以降の開催日は11月6日(土)9時30分～ じばんさん三重5階情報交換室